

は親切である。それ故是を以て權威あるビブリオグラフィに考へる事はできないが、最近に於ける海外の歴史研究、特に史料の編纂、遺跡の發掘等について簡單に纏まつた知識を得るには好適であり、その點は明快に要領を得て書かれて居る。又索引のない不便を忍ぶならば簡易な參考書^{ヒリクソライ}解題の代りにもなり得るから一卷を備へるだけの價値は充分である。下卷にはカーネギー學團の *Index*、

三、氏が歴史研究の國際間の聯絡に就いて一文を寄せて結を成して居る。着實な努力を以て過去五十年間を學界に貢獻し來つた *Revue Historique* 誌の記念出版としては誠に相應しい又意義ある編著であると共に、各國知名の學徒が夫々立派な論文を寄稿して居る事は同誌の誇でもあらう。(上下二卷、七五八頁、百法〔猪谷〕)

●愛知縣史蹟名勝天然記念物調査報告第七

愛知縣發行

本冊には歴史時代遺跡として大高城趾、鷺津、丸根等の皆趾と碧海郡矢作町の北野廢寺趾等を擧げてゐる。北野廢寺趾は大和の山田寺趾と其の規を一にして、磚佛及

び土塔を出土してゐることに於いて注意するに足る。又た原史時代として井戸田おつくり山、田代城山、村上おざり山、守山東山、神明宮、村山、丸山、長樂正八幡宮等の各古墳を紹介されてゐる。就中おつくり山古墳は最近の發掘にかゝり、漢式鏡、鈴劍、三鈴等を粘土槨と推定せしめるものから出土してゐる。

●古備古瓦圖譜

玉井伊三郎編

岡山縣下三國に點在する備前、備中、美作の國分寺を始め奈良時代と推定せしめる十四寺、平安時代及び以降とする十六寺、其他を合して約百三十點を圖版十八枚に收めしものであつて、同地の古瓦研究の上に確實なる資料を提供するもの云へる。(岡山市小橋町、玉井氏發行)

●魏子窩

東亞考古學會發行

昭和二年四月から五月に涉り南滿州魏子窩管内碧流河畔に行はれた東亞考古學會第一次の發掘には東京京都兩帝國大學、關東廳、朝鮮總督府兩博物館の外、中華民國北京大學の諸氏參加し、その調査作成は主として京都帝國大學考古學教室これに與り、その論述は同學の濱田教

彙報

●京都帝國大學文學部史學科本學年講義題目

國史

(講義
種別)

普通

三浦教授

國史概説

毎週

西田教授

國史概説

特殊

三浦教授

織田豊臣時代の文化

西田教授

古代の文化

今西教授

朝鮮古代史(第二・三學期)

喜田講師

日本民族史(第二學期)

大家講師

日歐外交史

演習

三浦教授

中世の社會

西田教授

日本文化史の諸問題

東洋史

普通

桑原教授

東洋史概説

羽田教授

東洋史概説

授の筆になつたものである。本冊は十六章に分たれ東老灘附近遺跡の地形と地質、單陀子島と高麗寒臺地の發掘と遺物包含状態、單陀子發見遺物(石器、骨角器、單色、彩色土器、埋葬墓等)高麗寒發見遺物(石器、骨角器、玻璃片、土器、鬲及甗形土器、銅器、鐵器、古錢)、兩遺跡の關係と年代、結論として該遺跡の考古學的價値を以て結び附録として清野博士の單陀子發見人骨、齋藤博士による古鐵片の二編がある。此地發見遺物は何れも主要なる地位を占むるものであつて精密なる土器分類は彩色土器乃至鬲甗の新知見と共に東亞に於ける土器論の一基礎をなすものと云へる。而して遺跡の示す文化は遺物の考究により西紀前一二世紀のものとして人骨測定による傍證と相待つて漢民族の一殖民地であるを推斷されてゐる。要するに本冊の使命が此等の遺物の考究に當りより精密にヨリ完全なる學術的調査を遂行する點にあつて就中本遺跡が考古學上最も重要な提供をなすものは繰り返すまでもなく東亞に於ける土器論の一基礎を形成したることであらう。(和英兩文菊二倍版、圖版六十八、挿圖四十二、定價拾八圓、東京神田駿河臺、刀江書院發行)(島田)

二 二